

また、静岡県では、県内 19 産地の茶園で、モニタリングの検査を実施しており、その平均値は一番茶（製茶）では、266 ベクレル/kg（100%）、二番茶（荒茶）では、149 ベクレル/kg（56%）、秋冬番茶（荒茶）では、44 ベクレル/kg（17%）と大幅に低下しております。

これらの結果から 24 年産の一番茶をはじめに、24 年産一番茶以降の静岡茶は、放射性物質については一層安全なレベルとなり、流通業者及び消費者の皆様により安心して取扱い、飲んでいただけるものと考えております。

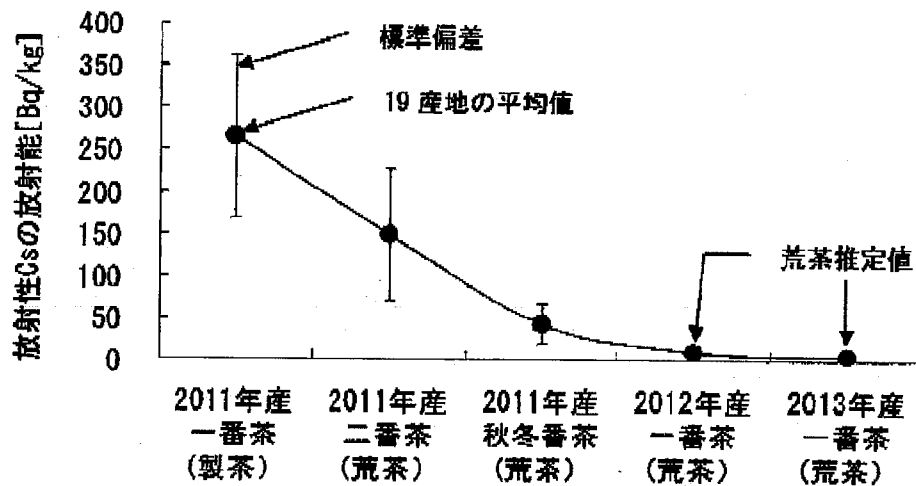


図2 静岡県内各19茶産地のセシウム含有量の推移

○ 放射能低減下技術対策の効果的な取組

多くの方から「なぜ福島県から 350km も離れている静岡県で、福島原発の放射性物質が検出されるのか」との質問を受けますが、これは、3月の福島原発の水素爆発で飛散した放射性セシウムが、気流に乗って、雨とともに各地に落下し、茶の樹の古葉に付着し、新茶が出る頃にその放射性セシウムが、古葉から新芽に移行したことによります。

本県の放射能セシウムを低減させる技術対策は、県茶業研究センターが中心となって取り組み、その研究成果を技術指導資料としてまとめ、茶栽培農家全戸に配付し茶園管理の指導を徹底してきたところです。

県茶業研究センターの土壌中の放射性セシウム含量は、11 ベクレル/kg 乾燥土と低いことや、根からの吸収が小さいことなどから、茶の樹が保有している放射性セシウムを減少させることが、新芽から作られる荒茶の放射性セシウム含量を低下させる効果の高いことが明らかになりました。

そこで、県では、関連団体と連携して、茶の樹の剪定にあたる更新作業を推進し、葉層を除去することにより、茶の樹が保有するセシウム含量を減らすことで、24 年産の茶期以降の新芽の濃度を大きく低減できようよう、取り組んでまいりました。

除去される放射性セシウムの割合（表2）は、浅刈りで 17%、深刈りで 36%、中切りで 75%の低減効果が認められ、これに加え、他の技術対策と組み合わせ大幅に放射性セシウムが減少したと考えております。